A52c　ぐんま天文台の国際共同活動

○古在由秀、橋本修、田口光、倉田巧 (ぐんま天文台)、Hakim L. Malasan (バンドン工科大学)

ぐんま天文台では、活動の基本方針のひとつとして国際協力を掲げ、その設立以来、様々な共同観測や研究者間での交流を行ってきた。特にアジア地域との連携に力を入れているのが特徴で、この地域からは多くの研究者がぐんま天文台を訪れ、150cm 望遠鏡やその他の施設を用いた共同研究を行っている。

それに加え、主に若い人材を招聘し、ぐんま天文台の施設を利用した観測の実習を行い、それをもとにした天文学の研究や教育の研修も積極的に行っている。アジアの国々の中には日本の政府開発援助 (ODA) などによって口径 40cm 前後の望遠鏡が装備されていることが少なくない。にも関わらず、それを利用できる人材の育成が不十分であり、折角の装置が有効に活用されていない場合が目立つのが実情である。このような状況を改善するのを目的として、自在育成の協力に重点を置いている訳である。場合によっては、ぐんま天文台の職員が現地に赴き、そこで装置の調整などに協力することも行ってきた。

今日の東南アジア地域における天文学の発展は目覚しいが、これまでの我々の活動の効果も少なからず貢献したものと評価されるようになっている。近年では東南アジア天文学ネットワーク (SEAAN) も設立されるようになった。その中心となっているインドネシアのバンドン工科大学とは 2002 年に協力提携協定を締結し、以来様々な共同事業を展開している。ぐんま天文台の国際協力活動についてこれまでの経緯や具体例の詳細を紹介する。